



報道関係者各位

令和元年12月9日
ヨコハマSDGsデザインセンター

ショートタイムテレワーク 第一回実証実験が終了しました！
～テレワークの活用により雇用側、働き手側ともに満足度が高い結果に～

ヨコハマ SDGs デザインセンター



SoftBank

ヨコハマSDGsデザインセンター（以下、「デザインセンター」）は、ソフトバンク株式会社（以下「ソフトバンク」）と連携して、ICTを活用した新しい働き方の提案「ショートタイムテレワーク」の実証実験を実施し、このたび実験結果をまとめました。

経緯

横浜市とソフトバンクは「SDGs 未来都市・横浜」の実現に向け、女性の活躍推進、超高齢社会への対応などのまちづくりの課題解決に連携して取り組むため、平成31年1月に包括連携協定を締結しました。

本取組は、この協定に基づくデザインセンターのパイロットプロジェクトの一つです。

ショートタイムテレワークとは

少子高齢化に伴う人材不足を補い、多様な人材の活躍を促進することを目指す新しい雇用・就業形態で、育児や介護、障がいなどの理由により、働く意欲や能力があっても長時間勤務や長距離通勤が困難な方が、自宅等でパソコンやタブレットなどのICT機器を活用することで、時間や場所に縛られない柔軟かつ新しい働き方の実現を目指した取組です。

実証実験の概要

1. 実施期間	2019年3月1日～8月31日
2. 対象者	汐見台地区（横浜市磯子区）在住 子育て中などの理由により、長時間勤務や長距離通勤が困難な方
3. 職種・業務内容	ソフトバンクのCSR部門（社会貢献部門）の業務 ① 企画 ② 一般事務、企画サポート
4. 使用するICT機器	パソコン、タブレット等を無償貸与 ビデオ通話などのコミュニケーションツールを利用
5. 勤務時間	週8時間程度（4時間×2日）
6. 勤務場所	自宅又は汐見台福祉センター（所在地：横浜市磯子区汐見台2-4-6）
7. 参加スタッフ人数	6人
8. 報告書	実証実験結果の詳細は、以下のWEBサイトより確認できます。 URL：https://yokohama-sdgs.jp/

実験結果

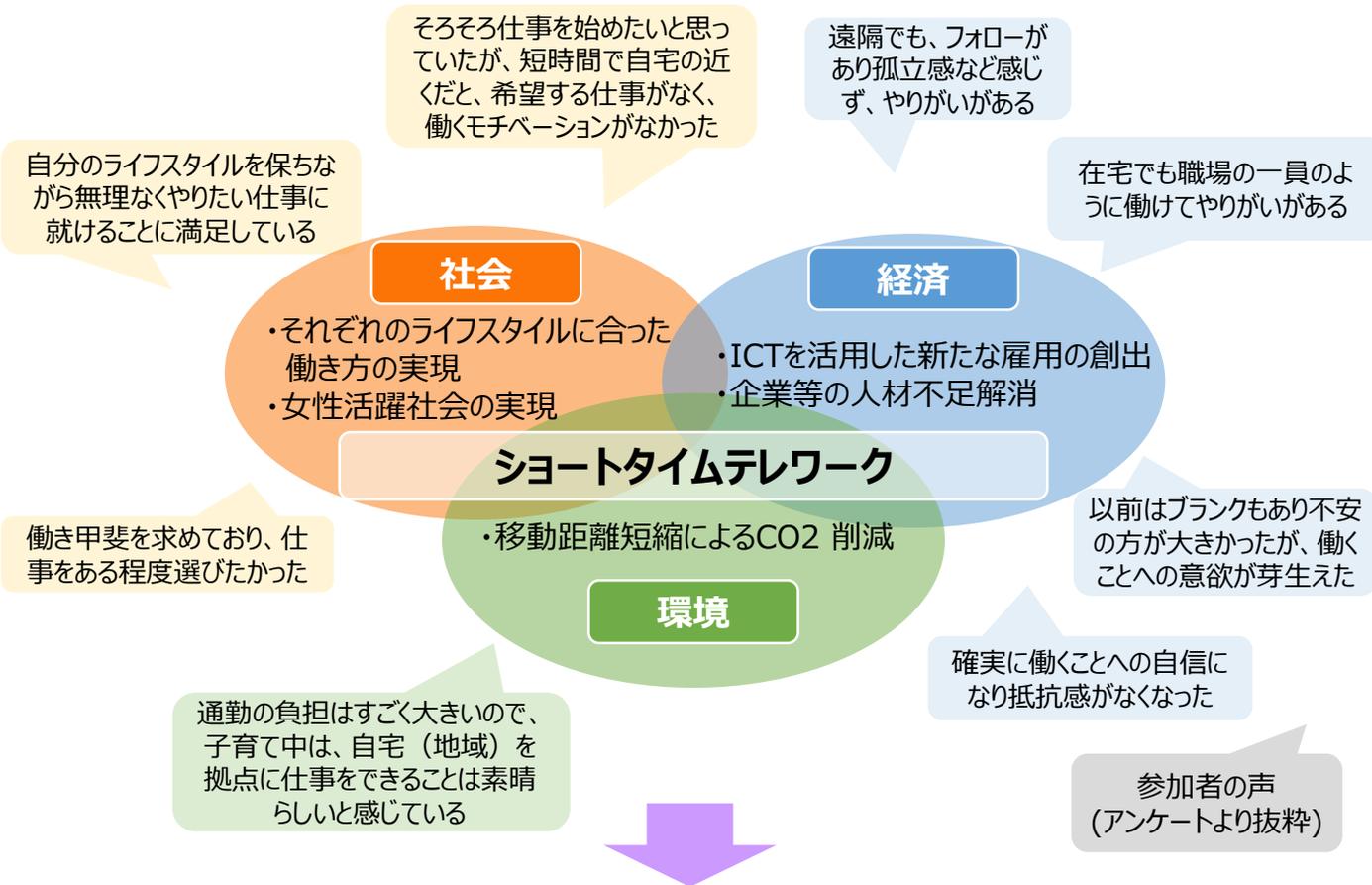
実施地区を対象に参加者を募集したところ、当初想定していた定員枠(5名)の約4倍の希望者がありました。

本市では、働く意欲のある女性が約9割※に上るなど、働きたいニーズがある一方で、子育てや介護等の制約によって働くことが難しい方も多くみられます。このような方々が、それぞれのライフスタイルを保ちながら自宅の近くで就業することができる「ショートタイムテレワーク」は、「住みたい」「住み続けたい」まちづくりのために有効な手段であることが今回分かりました。

デザインセンターとソフトバンクはこの実験結果を基に、今後も多くの企業で活用できる新しい働き方を提案することで、「住みたい」「住み続けたい」まちを実現し、「SDGs未来都市・横浜」の達成を目指します。

※平成29年度「女性の就業ニーズ調査」（横浜市）

裏面あり



横浜型大都市モデルの実現

「住みたい」「住み続けたい」と思える新しい働き方の提案



市内企業・他都市への普及・展開

ヨコハマ SDGs デザインセンター 

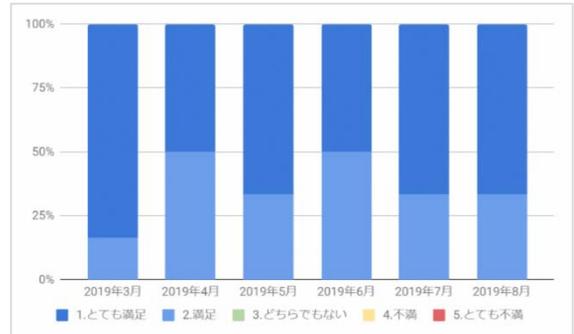
「SDGs未来都市・横浜」の実現を目指し、環境・経済・社会的課題の統合的解決を図る、横浜型「大都市モデル」の創出に向け、多様な主体との連携によって自らも課題解決に取り組む中間支援組織

(資料) 実験参加者アンケートの結果

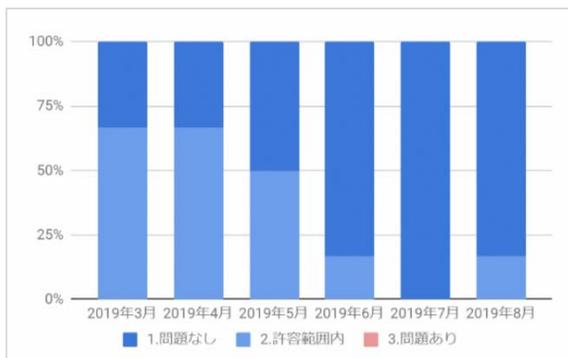
本実験期間中、毎月1回の頻度で、参加者の方（働き手側、雇用側）を対象にアンケートを実施し、総合満足度、ICTを活用したコミュニケーションの満足度、復帰への自信等について計測しました。

<働き手側>

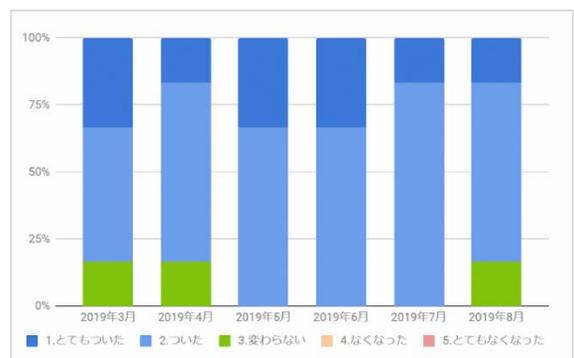
開始当初からスタッフの満足度は非常に高く、終了月になる頃には遠隔での勤務について支障を感じない人が多くなった



満足度について



ICTコミュニケーション手段について



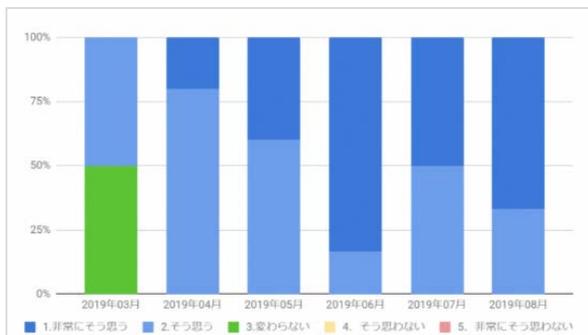
復帰への自信について

<雇用側>

開始時期には全項目において「どちらでもない」と回答した担当者が多かったが、徐々にスタッフに業務を切り出すことに慣れて、生産性の向上を実感することができた



満足度について



勤務時間・勤務場所は共に働く上で障害にならないことを実感できたか



業務生産性はあがったか